

# 持続的な企業価値向上の実現に向けて

2024年1月31日  
北海道電力株式会社

## ■はじめに

現在、電気事業を取り巻く環境は大きく変化しており、北海道においては、再生可能エネルギー発電事業の適地としてのポテンシャルの高さ等から、半導体関連企業やハイパースケールデータセンターの進出が進展しており、今後、電力需要が大きく増加することが期待されている状況です。

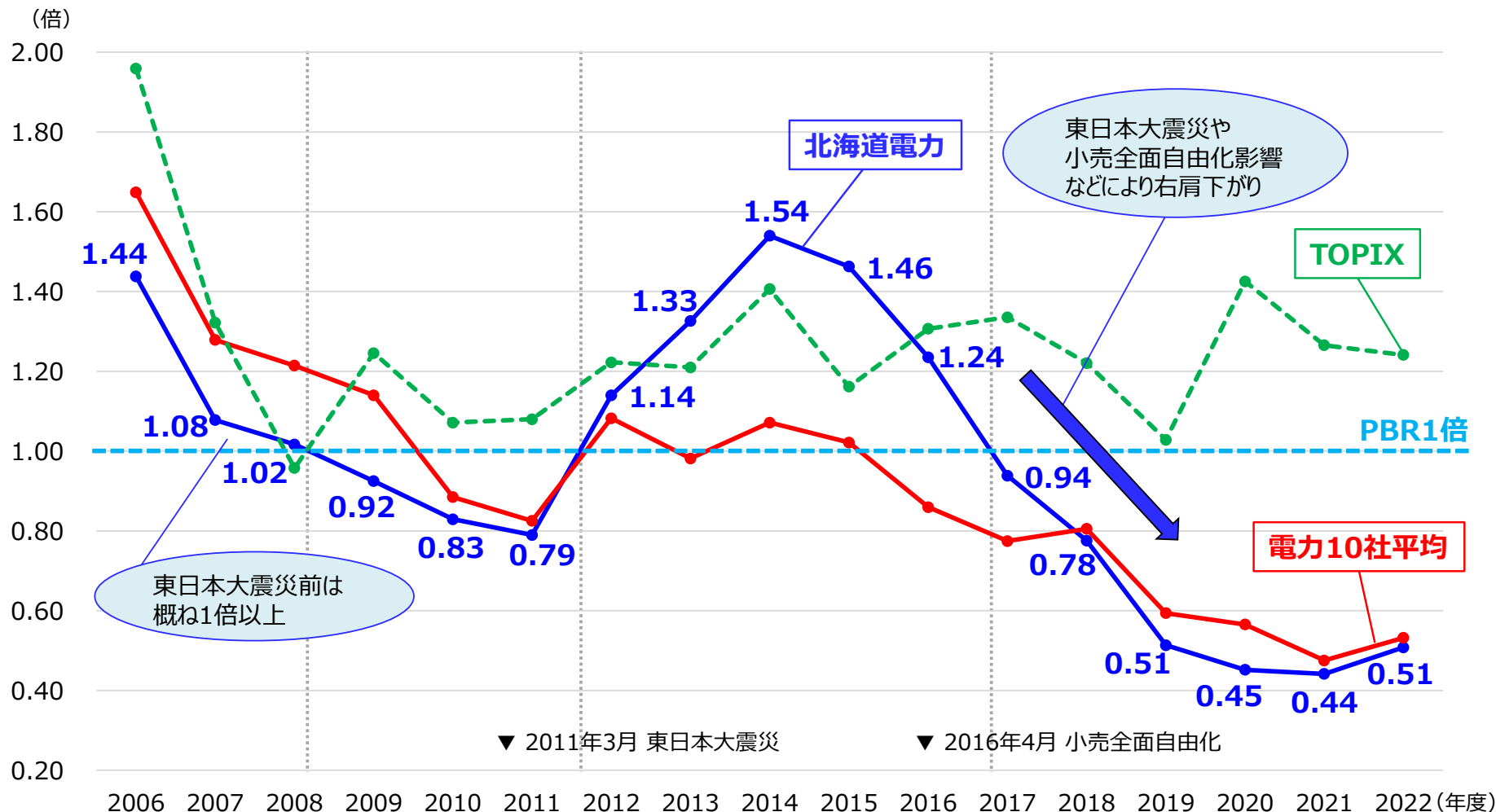
当社としては、この好機をしっかりと活かしつつ、持続的な企業価値向上を実現させていくためには何が必要かということについて、企業価値を表す指標の一つであるPBR（株価純資産倍率）を起点に分析を行った上で、取締役会でも議論を行ってまいりました。

今後、PBRが継続的に1.0倍を下回っている状況の改善、すなわち、持続的な企業価値の向上の実現に向けて、当社は「①ROICの向上」「②利益の最適配分と資本構成の最適化」「③事業ポートフォリオの見直しと非財務戦略の策定」の3点の方策に取り組んでまいります。

なお、具体的な数値目標や目標達成に向けた計画等については、現在、継続的に検討を行っているところであり、2024年度中を目途に、準備が整い次第、改めてお知らせさせていただきます。

## ■ 現状分析 ～当社のPBR推移～

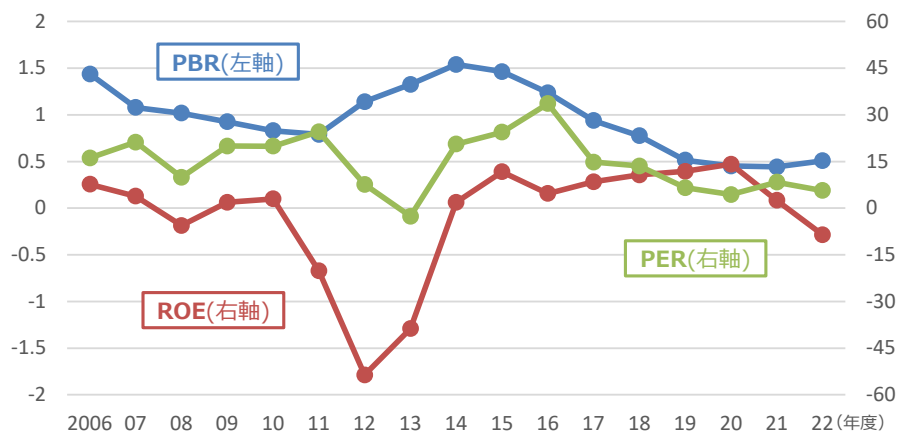
- 当社のPBR（株価純資産倍率）は、東日本大震災以降、泊発電所停止の長期化に加え、小売全面自由化による競争激化などにより、1.0倍を下回る状況が継続しています。



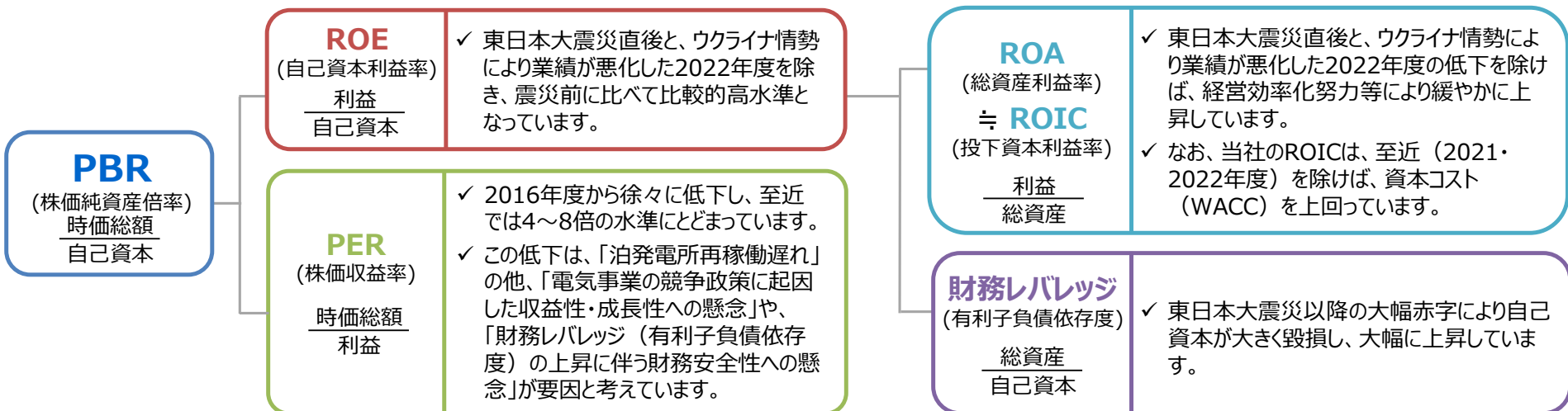
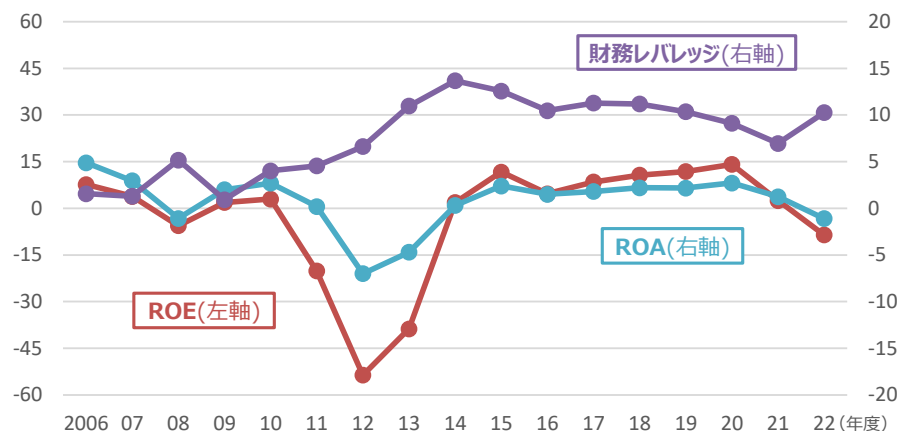
# ■ 現状分析 ～当社PBRが低迷している要因～

- PBRの構成要素を分解し、当社のPBRが低迷している要因を下記のとおり分析しました（左図：PBRをROE×PERに分解、右図：ROEをさらにROA×財務レバレッジに分解）。

**PBR分解 (PBR=ROE×PER)**

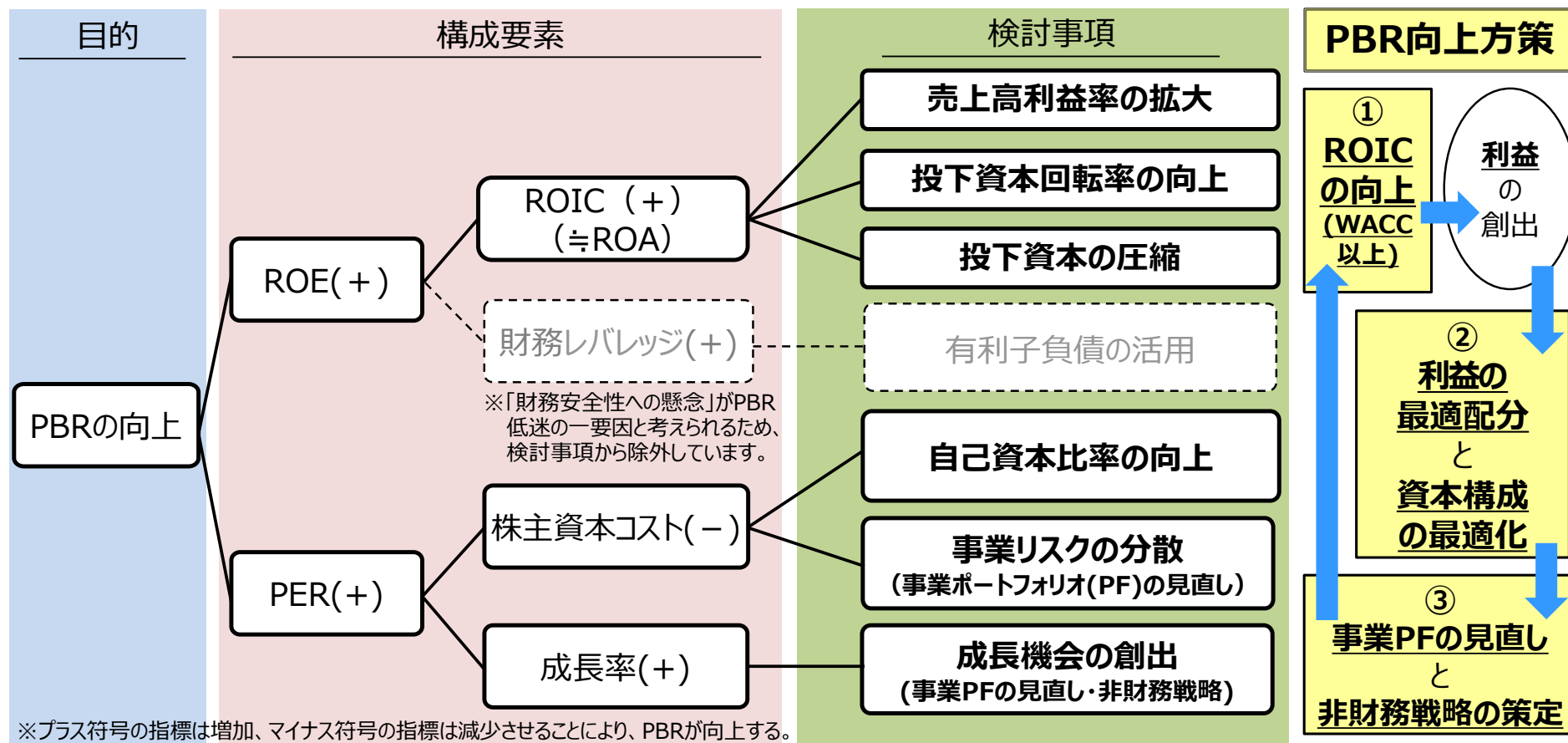


**ROE分解 (ROE=ROA×財務レバレッジ)**



## ■ PBRの向上方策

- PBRを向上させるための方策（①～③）は下図および次スライドのとおりです。
- 当社は、今後も持続的な企業価値向上の実現に向けて、各方策に取り組むとともに、より具体的な目標や、目標達成に向けた計画等を検討してまいります。
- また、資本市場の信頼を獲得し期待に応えていくために、IR等を通じた資本市場との積極的な対話を行い、これらの取り組みのさらなる充実を図ってまいります。



## ① ROICの向上

- 新たな経営指標としてROICを導入し、資本コスト（WACC）以上のROIC達成を目指します。
- 具体的には、泊発電所の早期再稼働に取り組むとともに、北海道において電力需要が大きく増加することを見据えつつ、以下の取り組みを行うことによってROICを向上させていきます。
  - ✓売上高利益率の拡大：企業誘致・電化拡大、事業環境を踏まえた販売戦略の展開、DX・カイゼン活動による効率化の推進
  - ✓投下資本回転率の向上：設備利用率の向上、労働生産性の向上
  - ✓投下資本の圧縮：需要拡大や新規事業への成長投資は進めつつ、最大限投資を抑制・厳選
- ROICを事業別の管理指標とし、事業部門がROICツリーを活用するなどして自律的に改善を図るとともに、取締役会等でのモニタリングを通じ、資本コスト（WACC）以上のROIC達成の蓋然性を高めていきます。

## ② 利益の最適配分と資本構成の最適化

- 資本コスト（WACC）以上のROIC達成により、安定的・継続的に利益を創出し、内部留保・需要拡大や新規事業への成長投資・株主還元適切に配分します。
- 引き続き、「ほくてんグループ経営ビジョン2030」で掲げている「自己資本比率15%以上」、「重点新規事業へ総額500億円以上投資」の達成を目指します。

## ③ 事業ポートフォリオの見直しと非財務戦略の策定

- 電気事業を取り巻く環境の変化や北海道における電力需要の増加、再生可能エネルギー拡大への期待等を踏まえながら、常に事業ポートフォリオの見直しを行い、事業リスクを分散させつつ、当社の持続的な成長に資する事業に集中的に経営資源を投入していきます。
- また、人的資本の充実にに向けた取り組みや北海道のカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みなどに関する戦略の策定・実行にも取り組み、非財務面からも当社の持続的な成長を推進していきます。